

渋谷区立 松濤美術館

特別展

地下1階陳列室

三枝朝四郎50年の写真記録

アジアの人間と遺跡

特別陳列

2階特別陳列室

江戸の人物画

—谷 信—コレクション—

2階サロンミューゼ

渋谷区 在住作家の作品

会期—昭和57年2月17日(水)—4月4日(日)

特別展 三枝朝四郎50年の写真記録 アジアの人間と遺跡

この展観は、わが国の遺跡写真の開拓者である三枝朝四郎氏が半世紀をこえる間、東京大学をはじめとするわが国の代表的海外学術調査に参加撮影された多数の写真のなかから選んだものの初めての公開で、中国にはじまり、インド、中近東の広い地域にわたっております。

氏は銀座の老舗に生まれ、4年余のロンドン留学のうち、その活動を昭和8年満州(中国東北)で始めました。日満文化協会主事として、奉天(瀋陽)をはじめとする多くの博物館の創設、熱河古建築、遼の慶陵、輯安の高句麗遺跡、遼陽の漢代古墓などの学術調査、美術展、学術協力、出版などの文化事業に尽瘁されましたが、とりわけその成果は、大冊『熱河』(関野貞)、『通溝』(池内宏)、『慶陵』(田村実造)などに輝いています。氏の温厚篤実、明朗闊達な人柄は、多くの先輩の庇護と指導をこうむったばかりでなく、同僚、後輩の敬愛をうけ、遺跡写真家として大成、活躍されましたが、とくに戦後わが国がイラン、イラク、インドなどで行った長期の、しかも困難をとまなう学術調査に参加、写真家としての領域をこえ、調査団の大黒柱として重い存在となりました。その調査は、東京大学イラク・イラン遺跡調査団(団長江上波夫教授、昭和31年より第1期、第2期)、東京大学インド史蹟調査団(団長山本達郎教授、昭和34年より第1次、第2次)、ティグリス川下流クルナにおけるアッシリア遺宝の引き揚げ事業(団長江上波夫東大名誉教授、昭和48年、中日新聞社主催、日本オリエント学会、イラク政府考古総局協催)であります。氏は遺跡・遺物などの文化財専門の野外写真家として、いかなる悪条件の下でも撮るべきものは撮るという職業意識の権化のような人ですが、一方、大規模な調査隊のマネジャーとして、雑多な問題の処理と調整に類まれな才能を発揮されました。それは人の和を自然に生みだす人柄と綿密な配慮に支えられております。また、氏のあたたかい目は、たえずアジア諸民族の生動する姿にもむけられ、適確にとらえております。80歳の壽を迎えられた氏は、昨年念願の『三枝朝四郎50年の写真記録 アジアの人間と遺跡』を江上波夫氏らの力添えをえて刊行されました。

本館は氏の業績に社会的意義を強く認め、これを展観に供するものであります。本展の開催にあたり御尽力下さいました三枝朝四郎氏、江上波夫氏、三宅俊成氏、堀暁氏など多くの方々の御好意と、三枝氏との永年にわたる親しい御関係の縁で、小西六写真工業株式会社から賜りました御協賛にたいし、深く感謝の意を表します。

出品目録／作家略歴(生年順)

- 山口雪溪 寒山捨得図
紙本墨画 83.8cm×25.7cm
- 英 一蝶 風俗図
絹本墨画 18.0cm×28.2cm
- 曾我蕭白 人物図
紙本墨画 126.9cm×27.7cm
- 曾我蕭白 鶴 図
紙本墨画 126.9cm×27.7cm
- 曾我蕭白 鹿 図
紙本墨画 126.9cm×27.7cm
- 高 嵩谷 人物落馬図
紙本着色 93.9cm×27.5cm
- 谷 文晁 寒山捨得図
紙本墨画 111.8cm×52.3cm
- 円山應震 老子出関図
絹本着色 91.4cm×36.9cm
- 鈴木其一 人物図
絹本着色 62.3cm×32.4cm
- 高久隆古 人物図
紙本淡彩 41.8cm×16.1cm

山口雪溪 正保元年—享保17年(1644～1732)

名は宗雪、号は梅庵。狩野永納に学んだがその詳伝は不明である。醍醐寺の「紅葉図屏風」の如き装飾画や他に水墨画などが伝わっていて、それらは狩野派を基にして更に室町時代水墨画に傾倒したことを証明している。江戸時代中期における京狩野の中で最もすぐれていた作家である。

英 一蝶 承応元年—享保9年(1652～1724)

大阪に生る。字は君受。一蜂・一蝶・牛麿・憐樵庵・翠蓑翁と号す。江戸に出て多賀朝潮といい、狩野安信に画を学んだと伝えられ、尚、芭蕉・其角等と交わった一種の通人であるが、幕府の忌諱にふれ元禄11年(1698)流罪となり在島12年、帰って英一蝶と改名する。狩野派の画技をもとにして当時の風俗精神を描写して一画体を創造し、町絵師の本領を發揮した。

曾我蕭白 享保15年—天明元年(1730～1781)

字は師竜または暉雄、号は如鬼、鬼神斎。伊勢の人で京都で高田敬甫に学び、室町時代的水墨画の骨法を得

て曾我蛇足十世と称し蛇足軒と号した。その強くて習癖ある水墨の筆法は時人を驚かして、応挙に劣らぬ名声を得たが、その性剛直で奇狂であった。

高 嵩谷 元文2年—文化8年(1737～1811)

字は子盈。号は屠竜斎。英一蝶の門人の佐脇嵩之に学んで一蝶様式を祖述する。師の嵩之(1707～72)は一蝶の高弟で初めは英一水と称した。狩野探幽の画法に学び、その様式は狩野派と浮世絵の折衷である。

谷 文晁 宝暦13年—天保11年(1763～1840)

写山楼、画学斎の号。谷麓谷の子で加藤文麗や北山寒巖に学んだが、自ら元明清の諸画を研究して、当時の狩野、土佐、南画及び洋画の各手法を折衷し、中年からは老熟して画体が変化して新画風を創造した。当時の江戸においてその門は甚だ盛大であった。松平定信に従って諸国を遍歴し「集古十種」の挿図を描いて寛政12年(1800)に編纂され、或は「歴代名公画譜」の模写を版行し、文化元年(1804)に「名山図譜」を著わし、「本朝画纂」を編す等、各方面に於て仕事をした。大小の作品が多く伝わるが、明画的な緻密な着色画から筆法鋭い水墨画に至るまで各種の様式がある。

円山応震 寛政2年—天保9年(1790～1838)

字は仲恭。号は百里、星聚館。京都に住み円山応瑞に学び後に嗣となる。又、駒井源琦にも学ぶ。山水及び花鳥画を得意とし、その画風は円山派に則り若干の写実的な描写が見られる。

鈴木其一 寛政8年—安政5年(1796～1858)

名は元長、字は子淵。別号に嚙々、菁々と称す。酒井抱一の弟子となったが、同門の鈴木蟬潭が文化14年(1817)に26歳で早世したので、その姉と結婚させて鈴木家を嗣がせ、酒井家の家臣に列して抱一の附人とした。その画はよく抱一の画風をうけ、抱一以上に装飾的で象徴的な画体に達し、俳諧や諸芸にも通じた。

高久隆古 享和元年—安政6年(1801～1859)

姓は秦氏。字は述而、号は梅斎、無道山人。初め依田竹谷に谷文晁の画風を、次いで京都で浮田一蕙に大和絵を学び、江戸に出て高久靄厓の嗣となった。大和絵的画体に文人画的要素を加えた達筆家で、江戸で有名であった。

渋谷区 在住作家の作品

作家略歴／出品目録(50音順)

入山白翁

明治37年(1904) 新潟県白根市に生まれる
昭和8年(1933) 東京美術学校漆工科卒業

《神代桜の巨木》1982年 漆画 変形30号

大久保 泰

明治38年(1905) 愛知県豊橋市に生まれる
昭和3年(1928) 早稲田大学商学部卒業 野口弥太郎・
児島善三郎に学ぶ
現在=独立美術協会会員

《パリの眺め(ペールビルより)》1968年 F 30号

大森啓助

明治31年(1898) 兵庫県神戸市に生まれる
大正9年(1920) 関西学院高等部卒業 川崎画学校で
学ぶ
現在=国画会会員

《ジャーマン アイリス》1978年 F 30号

清原啓一

昭和2年(1927) 富山県砺波市に生まれる
昭和27年(1952) 明治大学卒業 辻永に学ぶ
現在=光風会会員 日展会員

《マジョリカのバラ》1981年 F 20号

児玉幸雄

大正5年(1916) 大阪市に生まれる
昭和14年(1939) 関西学院大学卒業
現在=二紀会会員

《パリ風景》1981年 F 30号

近岡善次郎

大正3年(1914) 山形県新庄市に生まれる
昭和8年(1933) 文化学院美術部卒業 石井柏亭・有
島生馬・山下新太郎に学ぶ
現在=一水会会員

《みちのく湯宿》1980年 F 20号

堀内正和

明治44年(1911) 京都市に生まれる
昭和4年(1929) 東京高等工芸学校彫刻部を中退、二
科会の研究所(番衆技塾)に入り、藤川勇造に師事する
《正四面体をぬきとった立方体》1975年 高さ40cm

村田勝四郎

明治34年(1901) 大阪市に生まれる
昭和1年(1926) 東京美術学校彫刻科卒業 北村西望
に師事、ひきつづき研究科に入り朝倉文夫に師事する
現在=新制作協会会員

《頬づえ》1962年 高さ43cm

森 芳雄

明治41年(1908) 東京に生まれる
大正15年(1926) 慶応義塾普通部修了。1930年協会洋
画研究所に入り、中山巍の指導を受ける
現在=主体美術協会会員

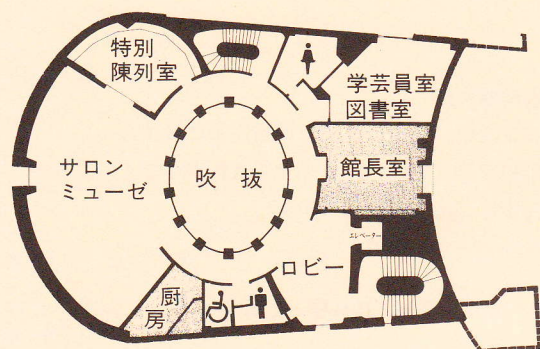
《うづくまる》1980年 F 20号

脇田愛二郎

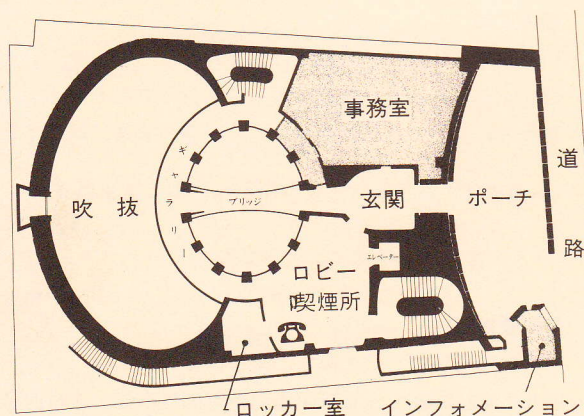
昭和17年(1942) 東京に生まれる
昭和39年(1964) 武蔵野美術大学卒業
昭和40年(1965) ニューヨーク、ブルックリン・アー
ト・ミュージアムに学ぶ

《アンタイトル》1979年 高さ154cm

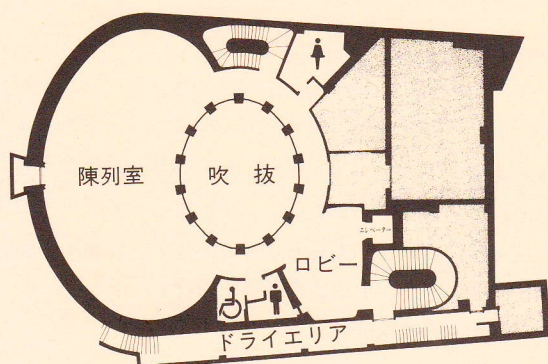
松濤美術館・平面図



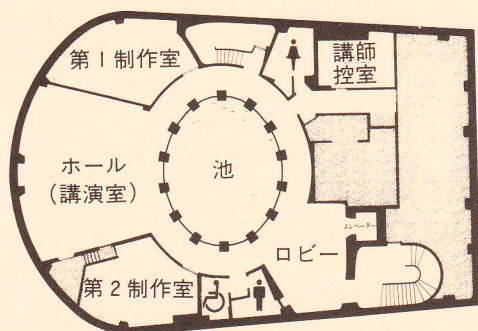
2F=2階



1F=1階



B1=地下1階



B2=地下2階

開館時間 午前9時～午後5時（ただし、入館は4時30分まで）

休館日 毎週月曜日（ただし、第2週のみ日曜日）
祝日の翌日及び年末年始（12月29日～1月3日）

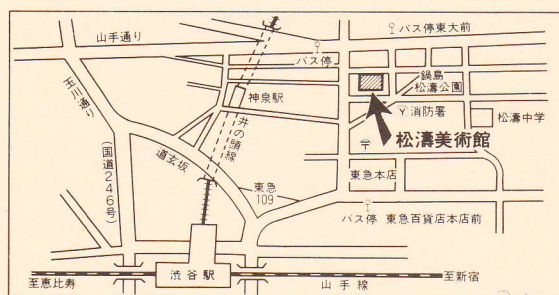
入館料

	個人	団体(20人以上)
一般	200円	160円
小・中学生	100円	80円

お願い

- 陳列品には手を触れないでください。
- 館内では万年筆、筆などを使用しないでください。
- 写真撮影や模写はご遠慮ください。
- 手荷物は1階ロビーのロッカー（無料）にお預けください。
- 動物や危険物は持ち込まないでください。
- 煙草は1階ロビー以外ではご遠慮ください。
- 下駄ばきの方は受付窓口にお申し出になり、スリッパにおはきかえください。
- 他の入館者の迷惑にならないように静かにご覧ください。

案内図



交通案内

- 山手線 渋谷駅下車——— 徒歩10分
- 井の頭線 神泉駅下車——— 徒歩5分
- 東急バス（渋谷駅⇔幡ヶ谷折返し所）東大前下車——— 徒歩2分
- 東急バス（初台駅⇔渋谷駅）東急百貨店本店前下車——— 徒歩5分
- 京王バス 都営バス（阿佐ヶ谷駅⇔渋谷駅）東急百貨店本店前下車 徒歩5分

※駐車場は、当館、付近にもございません。

渋谷区立松濤美術館

〒150 東京都渋谷区松濤二丁目14番14号

電話(03)465-9421